

発達障害・発達特性の ドイツでのサポート

当人と
かぞくの

今回の NIPPONip の特集記事は、2025 年 10 月 05 日に行われた JAMSNET ドイツ主催の無料のオンライン講演会「発達障害、発達特性の子どものドイツでのサポート」を当日参加出来なかった方々、これからこの情報が必要とされる方へ、まとめた特集記事となります。

記事の制作にあたり、2時間のオンラインセミナーをわかりやすく簡潔にまとめてくださった馬場先生 (JAMSNET ドイツ)、シュベネマン望氏 (DeJak- 友の会友の会代表)、登壇された諸先生方 (イベント時の登壇順) 松永優子先生 (精神科医、めじろそらクリニック)、ホーネカムプ山本有氏 (ドイツ公認臨床心理士、デュッセルドルフ日本人学校スクールカウンセラー) 鈴木夏美氏 (臨床心理士、デュッセルドルフ日本人学校) バーンズ亀山静子氏 (ニューヨーク州認定スクールサイコロジスト) 折口志都氏 (日本の認定心理士、フランスの発達障害児と家族を支える会でこぼんクラブ代表)、ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

発達障害・発達特性 (⇒ 神経発達症)

国際的な診断基準では「発達障害」は「神経発達症」と呼ばれています。障害という言葉が治らないことをイメージさせるためです。この特集では一般に従来から使われている発達障害・発達特性という用語を用いています。

情報引用、資料、参考：2025 年 10 月 05 日に行われた JAMSNET ドイツ主催の無料のオンライン講演会「発達障害、発達特性の子どものドイツでのサポート」で話された内容をベースにまとめたものに協力していただきましたみなさまに感謝します。※こどものイラスト画像のコピーライトは PhotoAC、ミミクリせん (横向きに歩く子供像、いろんな人種のことたち)。※本誌の一部または全部を無断で紙媒体、オンラインでの転載・複写・共有する事は禁じます。参考資料として利用される場合はご連絡下さい。info@nipponip.de

発達障害についての最近の理解

- 病気ではなく、生まれた時からの脳機能の偏り (定型発達とは多数派にみられる脳機能の偏り)
- しつけ、育て方が原因ではない。
- 環境とのマッチングが大切。

もしかして発達障害？

話者

松永 優子 先生
(精神科医)

発達障害とは何でしょうか？

皆さんはお子さまのどんなことが気になっていますか？

- ? 落ち着きがない
- ? 人の話を聞いていない
- ? ウロウロ立ち歩く
- ? 忘れ物が多い
- ? 宿題をやらない

WHO (国際保健機構) は、次の3点をもって発達障害としています。③が最も大切です。もし、その子自身や周囲が困っていなければ診断をつける必要はありません。

- ① 幼少期からその傾向が明らかになる
- ② 認知、行動、社会性機能の障害やずれがある
- ③ 日常生活、学業、対人関係などで支障、困難がある

発達障害の種類とは？

次の3つのタイプについて特徴を説明します。ただし、診断名が同じであっても、個々のお子様の特徴は様々です。

自閉スペクトラム症 (ASD)

周囲との関わり方や会話が独特で、強いこだわりと強い興味が特徴です。感覚が過敏だったり、生活の変化にストレスを感じやすいこともあります。

注意欠如・多動症 (ADHD、ドイツでは ADHS)

集中が続きにくく忘れ物が多い、じっとしていられず衝動的に動いてしまう、「人の話を聞いてない」ように見える、突然「人の話に首をつっこむ」ようなところがあります。

学習障害 (LD)

読む・書く・計算など特定の学習分野が著しく苦手です。知能や意欲の問題ではなく、脳の情報処理の特性によるものです。

親ができる最初の一手は？

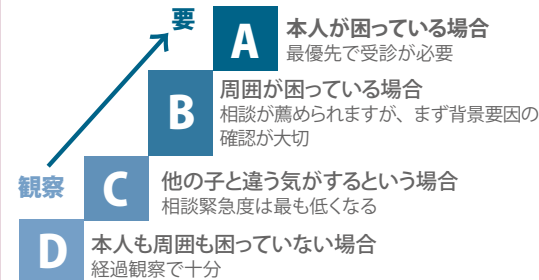
- ① 冷静な状況把握 具体的な行動の観察、特に担任教師からの情報は大切です。学校と家庭での行動に違いがあれば、双方にとって改善のヒントになります。
- ② 生活習慣 (特に睡眠) の見直し 睡眠不足は発達障害様の症状を悪化させるため、最初に是正を試みる価値があります。朝の太陽の光を浴びて体内時計を整え、朝食をしっかり摂って腸のリズムを整えます。
- ③ 身体運動を増やす スマホ、コンピューター等のスクリーンタイムを減らし、日中に身体を動かすようにします。就床時にデジタル機器のベッド内持ち込みは避けましょう。

年齢別 睡眠時間の提案

3～5歳	10～13時間
小学生	9～12時間
中学・高校生	8～10時間

参考 (健康づくりのための睡眠ガイド2023)

いつ専門家に相談したらよいでしょう？



相談することは、甘えではなく、子どもを守る第一歩

生活を見直しても改善しない、親子で取り組んでもうまくいかない、困りごとが続いている、親子関係が悪化する、対応がパニック的になる、そんな時は無理をしないで専門家に相談しましょう。

診断のプロセスを教えてください

- 行動観察** お子さんの行動や、親御さんとの関わりを観察し、診断に必要な情報を収集します。
- 面談による情報収集** 家族や教師からの聞き取りで背景情報を集め、多角的に評価を進めます。
- 心理テスト** 標準化された検査を用いて客観的なデータを取得し診断の補助とします。

早期診断のメリットはありますか？

- ▶ 仮にお子さんの発達に特性があることが早期に理解できれば、適切な支援にアクセスでき、お子さんの発達促進に繋げることができます。
- ▶ 家庭・学校が協調して社会的スキルを学ぶ支援ができます。(良好な人間関係の形成、気分の安定、学習能力の向上など)

日本メディカルセンター

欧州の日本人の拠点・デュッセルドルフで日本品質の安心と信頼の健康診断

- ✓ 日本と同様の健診・人間ドック
- ✓ 医師との会話・診察は全て日本語
- ✓ 結果のレポートも日本語
- ✓ 健診結果は日本人基準で評価
- ✓ アクセス良好(ドイツ全国から来院可能)

Prinzenallee 19,
40549 Düsseldorf
(プリンツェンパーク内)

駅近!

お問合せは全て日本語で

☎ 0211-159 839 10
✉ info@dock-nmc.de
🌐 www.dock-nmc.de



配信は月に1回～2回 ドイツ在住者にお得な情報やオンラインイベントの参加方法もここから

ドイツ生活に役立つ情報 **無料** でゲット

ニュースレター会員募集中

NIPPONip Germany

<https://blog.nipponip.de/newsletter>



広告主も募集中

✉ 平均開封率 70%、クリック率 20% の人気ニュースレター、登録者数は毎月増加中。

ドイツの支援制度

連邦州ごとのサポート体制

教育分野は連邦州の管轄のため、支援の具体的な実施方法は州や学校ごとに異なります。

そして、ドイツでの診断までの流れは、ドイツ語を話す子どもとドイツ語を話さない日本人の子どもでは、支援を受けるまでのルートが違います。

支援を受けるために診断をおこなう医療機関

医療機関	(ドイツ語)
小児科医	Kinderarzt/-ärztin
ホームドクター	Hausarzt/-ärztin
小児・思春期精神科専門医	Facharzt für Kinder- und Jugendpsychiatrie
社会小児保険センター (SPZ*)	Sozialpädiatrisches Zentrum

* 実際に診断を行うことが多い専門機関



ドイツ語を話す子どもの場合

家庭、幼稚園、健康診断、就学前検査などで、発達障害・発達特性 (Entwicklungstörung) の兆候がみられる場合

→ 小児科 または、ホームドクターに相談、そこからの紹介
→ 小児・思春期精神科 / 社会小児保健センタ / 小児精神科クリニック及び開業小児青少年心理士で診断します。

診断がなされれば無料で支援制度の利用ができます

- 他の疾患と確実に鑑別可能な症状が幼少時にすべて発現するわけではない為、診断は早い方がいいということは必ずしも言えない。診断に至るまでの待ち期間は長い (通常数ヶ月~)
- ▶ 自閉スペクトラム症 (ASD) は 2 歳前より
- ▶ 注意欠如・多動症 (ADHD*) は多くは 6 歳前後
- ▶ 学習障害 (LD) は小学校入学後

* ドイツでは ADHS

	Free	Standard	Special
年間料金	0 €/年	40 €/年	60 €/年
NIPPONip 本誌 (配布店舗から自分で入手)	☑	☑	☑
NIPPONip 本誌 (ドイツのご自宅へ郵送)		☑	☑
翌年の日独カレンダー*		☑	☑
限定記念品*			☑

NIPPONip 活動・発行を支えるサポーターになりませんか?

おまけがついてくる

定期購読は、いかがですか?

一年で自動解約だから、解約忘れもなくて安心。

詳細・お申込み方法は定期購読ページでご確認ください。
<https://blog.nipponip.de/nipponip-magazine-abo>



ドイツ語を話さない日本人の子どもの場合

現在、ドイツで日本語で包括的な診断を受け、結果説明を日本語で受け、診断書をドイツ語で発行するような仕組みはありません。

支援申請から運用までの全行程がドイツ語で行われるため、日本語家庭には初めの段階からハードルが高い状況です。また、通訳が介在しても子どもたちの特性が正確に伝わりにくく、診断場面での不安感から本来の姿が見えにくいことで困難なことも予想されます。

ドイツでの行政支援のハードルを大きく下げするために

日本からの診断書の英訳

- 日本で受けた診断書が 6~12ヶ月以内のものであれば、英語またはドイツ語訳を添付することで、行政支援のハードルを大きく下げられる。
- 一時帰国の機会があれば日本で英語診断書と特性に基づく具体的な支援アドバイス (指示書) を作成してもらうと、ドイツでの支援設計に有効。

学校での支援の実際

学校での支援 (国際スタンダードであるインクルーシブ教育) は、「特別な支援が必要な子どもも可能な限り通常学級 (Regelschule) で学ぶ」ことが基本理念です。さらに支援員による授業中のサポートなど個別支援が制度として組み込まれているのが特徴です。(ただし全ての子どもが必ず通常学級に通うわけではありません)

学習面での調整も行われます (タブレット端末の使用、テスト時間の延長、別室での受験など)。成績そのものは同等に扱われます。

健康保険を使つての支援

医師の処方箋により、作業療法 (Ergotherapie) による

情緒、社会性の発達支援、感覚統合サポート、言語聴覚療法などが行われます。注意欠如・多動症 (ADHD) では症状により投薬治療が併用されます。

介護保険を使つての支援

生活自立が困難な場合は介護保険 (Pflegekasse) の申請もできます。

特殊支援学校

全生徒の 4 % は特殊支援学校へ通学し、例えば、NRW 州には 7 種の学校があります。

- ① 学習障害
- ② 言語障害
- ③ 情緒と社会性に関する障害
- ④ 聴覚障害
- ⑤ 視覚障害
- ⑥ 精神と知能の発達に関する障害
- ⑦ 身体と運動機能の発達に関する障害

* 各州により違う場合あり



学校別でみた支援と留意点

A. 現地校 (ドイツ語)

公的支援制度の恩恵を受けやすい。

B. インターナショナルスクール (英語)

学校に独自のメンタル領域のサポート体制がある場合あり。日本からの診断書の英訳で支援 (英語) を打診できる。

C. 日本人学校 (日本語) (在外教育施設・私立)

日本の公立学校や特別支援校に比べ支援体制の整備は一般に不足している。受入れもケース・バイ・ケースで面談、体験入学で判断。受け入れ態勢が未整備で不可の日本人学校もある。

ドイツでの不登校の扱い

日本と大きく異なることに注意してください。ドイツでは、学校拒否、学校恐怖症と呼ばれます。

フリースクールやホームスクリーニングは原則的に違反になります。また、教育を受けさせる保護者の義務を怠った違反行為とみなされ、児童相談所が介入することあります。

ドイツの現地校においては、長引く欠席や試験時の欠席などの場合、学校長が定める規定により医師の診断書や保護者からの書面での説明を求められることがあります。3日以上の欠席時に自動的に診断書が必要と言うのは間違いです。

ドイツで支援が必要な場合、どこに相談する?

学校での支援は、学校を通じて児童青年局 (Jugendamt) や、社会福祉局 (Sozialamt) へ申請され、費用は公費や健康保健を利用します。日本語を話す支援員がいるかどうかを直接尋ねてください。

▶ 対象児童に知的障害がある場合は、支援の申し込みの管轄が社会福祉局 (Sozialamt) に、そうでない場合には居住州の児童青少年局 (Jugendamt) が管轄* になります。
*NRW 州の場合

幼稚園で何らかの発達に関する指摘があった場合には、家庭医または小児科医に相談してください。学童時以降の場合には、学校での支援についての情報を得るためには担任の先生に相談を、診断などについては家庭医や小児科医へ相談してください。

この記事に出てくるドイツ国内の重要事項と連絡先、日独の必要な単語をまとめています。
NIPPONip ブログの記事でチェックを!
blog.nipponip.de/link_pwdd_support_germany



デュッセルドルフ
日本人学校での取り組み

話者

鈴木夏美氏
(臨床心理士)

通級指導教室 (通称、Bitte ルーム)

2023 年秋に試行開始、2025 年度より文部科学省認可の「通級指導教室」設置に至った小中学校の発達障害 / ニューロダイバーシティのある児童生徒のための特別支援の場です。

子どもが安心して「助けをお願いできる場所」

対象児童生徒：9 区分

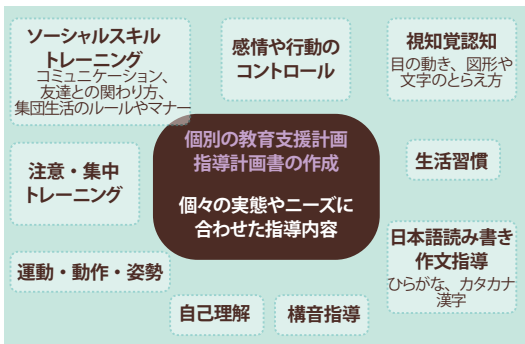
- ①言語障害 ②自閉スペクトラム症 (ASD) ③情緒障害
 - ④弱視 ⑤難聴 ⑥学習障害 (LD) ⑦注意欠如・多動症 (ADHD) ⑧肢体不自由 ⑨病弱・身体虚弱
- * 総合的判断で支援が必要とされる場合。知的障害は対象外スタッフ

常勤 3 名、非常勤 3 名で、特別支援学校・通級 / 特別支援教室での教育経験者、特別支援コーディネーター、言語聴覚士、臨床心理士、教員免許所持者が担当。

対象となる児童生徒数

日本の都内学校と同水準 (約 9%)。

Bitte ルームでの支援内容 (例)



現在の課題は？

設備の面では、バリアフリー設備が多種多様な子ども達に全て対応しているとは限らず、ニーズによっては受け入れに制限があります。通級指導教室の職員は特別支援教育の経験者が担当しており、日々奮闘していますが、さまざまな子どもたちの実態に合わせて指導するためにはスキルアップが欠かせません。そのための研修や指導法のアップデートをどのように効率良く行っていかかが課題です。また、支援体制の安定化のために専門性を持った人材の確保も課題ですが、現地職員の採用や引継ぎを確かに行うことで、子ども達が安心して学ぶ環境を整えられるよう努めています。

話者

阿部誠氏
(DUS 日本人学校校長)

海外でも安心して
学べる学校へ

本校では、北米・ヨーロッパの拠点校として、在外で学ぶ子どもたち一人ひとりの個性や特性に応じた教育の充実を目指しています。

通級指導教室は順調に運営されており、学習面だけでなく生活面や情緒面にも配慮した支援を行っています。

JAMSNET ドイツをはじめとする支援ネットワークや専門家の協力を得ながら、講演会の開催や横浜国立大学との遠隔支援連携など、専門的知見を生かした取組を継続してきました。また、校内研修では「UD (ユニバーサルデザイン)」をテーマに掲げ、教職員が日々の授業の中で、誰にとっても分かりやすく学びやすい指導の実践に励んでいます。こうした実践を基盤として、2026 年度には特別支援学級の開設を予定しています。

本校では、通常学級で学ぶインクルーシブ教育と、必要に応じた個別支援を組み合わせたハイブリッド方式を重視し、海外という制約の多い環境においても、子どもたちが安心して学び成長できる教育環境の整備に努めています。

ドイツでの対応の現状

セミナーまとめ
ドイツに関する情報

バイリンガルの子どもへの対応

ドイツで育つお子様の多くは、2 国語環境 (もしくはそれ以上) にあり、多文化の生活背景から価値観や生活様式、文化的背景は複雑になりますこのような場合、診断への影響があることは否定できません。どちらの国の診断が正しい・誤っている、良い・悪いではなく、大切なことは、適切な評価と支援に繋がれることが大切です。

当人が学校・家庭で困っていることと、文化的な解釈とは分けて日独両方の専門家に診断してもらった上で、それぞれの所見を互いに参照してもらうことも、場合によっては必要かもしれません。

ドイツに必要な心構え

支援団体など、どこも深刻な人手不足で、自分から積極的に動き、助けが必要なことを繰り返しアピールすることが大事です。

また、ドイツでは、何もかも縦割り、本人 (親) がすべてを把握して、横のつながりを作る努力が必要です。地元の親仲間を作って情報交換をしたり、専門団体なども積極的に利用して相談するようにしましょう。コミュニケーションに不安があれば通訳を依頼する方法もあります。

知っておくべきドイツの制度・サービス

ドイツでは州によって事情も制度も異なることがあるため、他州の情報は、居住地と違っている場合も多いため、「地元の親仲間」「同じ情報を必要とする地元のつながり」が大切です。たとえば、相互の情報交換を目的とした Selbsthilfe という (対面・オンライン問わず) 地元グルー

プがあります。このグループでは、家族などの当事者が集まり情報交換などを自分たちで行う場を作っています。(運営には健康保険から助成があります) 「ベルリン自閉症児・発達障害児親の会」では、ベルリン在住の日本人の親の会として当事者同士の情報交換の場として運営されています。月に一度程度集まって、在外邦人同志の共通の悩み (日本語教育、支援策、ベルリンの学校情報など) を話し、情報を共有しています。

注意：繰り返しになりますが、州毎によって制度や申請方法も異なります。また、通常の (ドイツ) ベルリン生活情報などは質問は受け付けていません。会についての詳細、お問合せは、必ず HP のガイドラインに従ってください。https://enj-berlin.com/

知っておくべきドイツの制度・使えるサービス

障がいの診断が必要

SPZ (Sozialpädiatrisches Zentrum)

- ・診断、治療、多職種の連携、親のサポートも。

Schulbegleiter, Schulassistent, Schulhelfer など*

- ・学校の特別支援員。*Integrationshelfer, Inklusionsassistent, Individualbegleiter とも言う

子どもが学校に通う (学童保育も含む) 権利のため。

Einzelfallhelfer

- ・学校以外での支援員

診断前でも相談できる

Autismusverband

- ・専門団体、英語での相談は通常対応可。

Erziehungsberatung

- ・教育相談

Pflegeberatung

- ・介護相談、子どもの介護専門相談員

Selbsthilfe

- ・家族など当事者が集まって情報交換などを行う。

ドイツに関するサポート情報

5月13日(水) NIPPONip 無料オンライン・セミナーシリーズ

11 時 00 分～12 時 00 分
当日先着 100 名まで

「親として、大人として、
知っておきたいこと、家庭でできるサポート」

発達障害・発達特性のドイツでのサポート

講師は、現在週 2 日日本人学校で勤務する他、オンラインで個別の相談も受付けている特別支援や子ども相談に携わる鈴木夏美氏です。(アメリカの大学で心理学を学び、日本の大学院で臨床心理学修士を取得。)

- ▶ NIPPONip79 号の特集内容を読んでもっとお話を聞いてみたい方に
- ▶ 事前質問受付中 * 事前質問票へのアクセスは後日ブログ告知記事から



参加方法はニュースレターに登録後に参加リンクが入手できます。登録方法は https://blog.nipponip.de からご確認ください。

詳細はブログ告知記事でご案内します。より多くの方に現状を知っていただくことは、これからを変えていく一歩になります。みなさまのご参加をお待ちしております。

▶ 参加リンクの入手はこちらから



だから私は DKB

ドイツ国内大手・老舗のオンラインバンキング

- ドイツ国内、日本含む世界中での支払い・現金引き落とし手数料無料 *1

- 現金引き出しも手数料無料で *2

「Visa」マークのついた ATM から、一部スーパーや店舗から

- 日本帰国後もオンラインだから口座を残しておく

日本語で申込方法・手続き方法を知りたい方はこちらから →



*1 月々 700EUR の振込がある場合のみ *2 引き出し場所により、引き出し可能な最低金額・上限金額あり

「なんでそんなことをするの?」

と腹を立てなくてもよい
支援へのアプローチ

話者

バーンズ亀山 静子 先生
(ニューヨーク州認定
スクールサイコジスト)

実行機能をご存知ですか?

実行機能とは目的達成のために自分自身の行動をコントロールし、やり遂げるための脳の働きの総称で、いわば脳の中の司令塔です。脳の前頭前野といわれる部分が担っています。

能力もスキルもあるのに「できない子」の問題は「実行機能」にあります。実行機能の低下は、生産性の低さとなって表れます。

実行機能の具体例

- ・何から始めるか決める
- ・途中で気が散っても元に戻る
- ・予定を立てて順番に進める
- ・感情や衝動を抑える
- ・失敗したらやり方を変える



▶実行機能の低下は生産性の低さになって現れる

- ・優先順位の失敗
- ・忘れ物
- ・開始の遅延
- ・持続困難

何度言っても同じことをし続ける

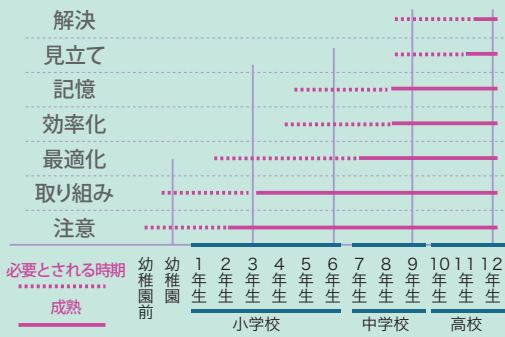
- ・何をするか分かってない
- ・いつするか分かってない

その結果、

- ・〇〇を早くしなさい
 - ・〇〇をきっちりやりなさい
 - ・〇〇を最後までやりなさい
- というように言われることが増えてしまう



学校生活の中で、実行機能の必要性は徐々に増加



必要とされる時期
成熟

実行機能の成熟と学校の要求の乖離

実行機能の成熟は 20 歳代後半まで段階的に成熟します。しかし、学校環境は早期からの実行機能を要求します。例えば、ADHD (ドイツでは ADHS) では注意の維持、段取りに約 30% の発達遅れの傾向があるとされています。

行動のパラドックスも関与

親や教師から「〇〇をしなさい」と言われたときの行動がうまくいかず、結果として、やる気がない、反抗している、と見られがちです。しかし、その一方で、自分がやりたいと思うときは、効率が約 4 倍も違います。

実行機能と行動のパラドックスを考慮した働きかけを、周囲の大人が「外付け前頭葉」として実行機能の助けをしてあげることが重要です。例えば、

- × 「もう何度言ったらわかるの!」
- 「もう何度言ったらわかるの!」ではなくて、セルフトーク誘発や、問いかけることばで促してあげてください。
- 今から出かける準備、何をやるんだっけ?
- 前回どうだった?

自己調整の発達を促すために

- ・うまくいったことを強化してあげる
- ・手本をみせてあげる
- ・何をするか言わせてから行動へ
- ・まず考えることを思い起こさせる
- ・ストレスへの配慮も大切
- ・運動や睡眠の質を高める



覚えておこう

自己調整は、その伸び速度には個人差がありますが、年齢とともに改善します。

「やればできる」の考え方が重要で、お子さんの実行機能がうまく働いていない時は、お互いに助け合うことが大事です。また、その行動には理由がある場合もあるので、忍耐強く対応することもあるでしょう。支援者の実行機能の特性とのマッチングも考えましょう。

両親への助言

話者

折口 志都 氏
(日本の認定心理士)

「でこぼんクラブ」

バリの発達障害児と家族を支える会

2011 年に設立。主な活動内容には、**でこぼん療育活動** 日本語環境のもと、こども同士、親同士の交流の場、**異文化交流の活動** 現地の特別支援学校や支援学級、小児精神科病棟などで、はた織りアトリエを開催、**バリ日本人学校の特別支援への取り組み** 週に一度、特別支援相談員として訪問、月に一度、校内特別支援委員会に参加、など。

今までのバリ日本人学校の OB の中で、10 歳まで鉛筆を持たなかった子どもが、絵描き歌をきっかけに字や絵を描きはじめ、28 歳になった今はフランスや日本で展覧の開催するまでの才能を発揮している。

こどもの発達相談を通して、よく聞かれること (親が気になること)

- 教育機関について** 各学校の特別支援の状況 (日系校、現地校、インター、特別支援学校…)
- 現地福祉について** 福祉の手当、療育の種類、付き添い派遣、申請の仕方など
- 現地医療について** 予防接種、薬のもらい方、診断の受け方、かかりつけ医の見つけ方など
- 子どもの発達の問題** ことば、コミュニケーションの遅れ、落ち着きがない、多動など
- メンタルの問題** 家庭内暴力、いじめ、不登校、自殺願望など

今までの 15 年間の活動を通して、保護者のみなさまにお伝えしてきたこと

- ・こどもと向き合い、オーダーメイドの育て方をみんなで考えよう。
- ・専門家探しより、自分に自信が持てる居場所探しを。
- ・子どもが自分からやりたいことと思ったことを全力応援する。
- ・現地の親の会は、情報と仲間の宝庫。
- ・完璧を目指さず、肩の力を抜く。
- ・“いい加減”、“なんちゃって” 精神でいよう。
- ・自然や異文化に触れることも立派な療育。
- 海外生活を楽しまう。
- ・海外では、子どもも環境も、もっと多種多様。
- 共通する正解はない。

私たち日本人の大人も、海外ではマイノリティ。支援の対象となりうる。



ドイツ生活を楽しく過ごせる情報満載
blog.NIPPONip で息抜きやイベント参加を!
<https://blog.nipponip.de>



※本誌の一部または全部を無断で転載・複製する事は禁じます。 参考資料として利用される場合はご連絡下さい。 info@nipponip.de

各種印刷

ノベルティ制作等



www.sudesign.eu



人気
日本定番サイズ
9.1cm X 5.5cm
名刺 名刺
8.5cm X 5.5cm
ドイツ定番サイズ



商品タグ
商品タグ



住所印
会社印



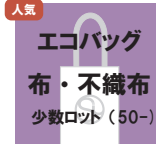
市場調査
展示会
ブース設営



展示会
パネル



うちわ
ユニフォーム
シャツ
ポロシャツ



人気
エコバッグ
布・不織布
少数ロット (50-)



スーパー
店舗内用
商品陳列棚
POS 棚



その他
製品制作
HP 制作

ドイツ国内お届けします

見本市・展示会の
総合サポートもお任せ





放課後等デイサービス Hapiness

運営者・看護師

ビリップス 美由記 氏 インタビュー

全ての画像：
放課後デイサービス HAPPINESS 提供

「放課後等児童デイサービス」とは、主に身体・知的・精神に障がいを持つ就学児が、放課後や長期休暇日などに通うことのできる福祉サービスのことで、設備やサービスの内容は、施設ごとによって異なります。

今回のインタビューでは、国際色豊かなスタッフ、ボランティアや支援者たちと共に、国際的でユニークかつ独自のプログラム運営を行っている日本の放課後等デイサービス Hapiness を代表して、看護師であり、運営者として運営に携わるビリップス美由記氏にインタビューしました。

放課後等児童デイサービス HAPPINESS

施設の運営、役所や近隣住民との連携、子どもたちとご家族との関わり方、日本とフランス（欧州）の違い、相談支援事業所 PLAISANT、移動支援、居宅介護支援事業所ハートポート FELIZ など、大切な取り組みを多くの方に知っていただくために、**オンライン記事では、掲載しきれなかったインタビュー全文を公開しています。**

CONTACT : 兵庫県神戸市東灘区青木一見学、ボランティア参加、支援者など随時歓迎。以下よりご連絡ください。

IG @55happine33

HP <https://happinesskobe55.wixsite.com/home>

F www.facebook.com/55happiness.kobe



※放課後等デイサービス・ハピネスの「インタビュー全文」は本誌ブログで公開
<https://blog.nipponip.de>

最初に発達障がい・特性の支援活動に携わったきっかけは？

もともと私は、保育士か介護士の道に進むかで迷っていましたが。そんな中、友人に背中を押してもらい、最終的に看護師の資格を取得しました。看護師として勤務していたクリニックから、障がい児支援施設の前身となる「どんぐり」を紹介されたことが、発達障がいや特性のある子どもたちと関わるようになった最初のきっかけです。

大きな転機となったのは、当時の社長が病で亡くなられたことでした。スタッフ同士で何度も話し合いを重ねました。その中で、「子どもたちが楽しみながら、さまざまな経験を通して成長してほしい」という、これまで大切にしてきた支援の形を、これからも守り続けたいという思いが強くなりました。その決意のもと、仲間たちと共に新たに立ち上げたのが「HAPPINESS」です。

どのような障がい・特性や年齢層の子どもたちが利用していますか。

現在は、小学生から高校生まで、約 20 名の子どもたちが通っています。特性は実にさまざまで自閉症スペクトラム、ADHD、知的障害のある子どもたちをはじめ、難病や持病を抱える子、医療的ケアが必要な子、車椅子を利用している子など、です。

私たちが何より大切にしているのは、障がいの種別を超えた「対等な関わり」です。例えば、身体に不自由のある子が知的障害のある子の宿題を見てあげたり、逆に知的障害のある子が、公園で車椅子を押して一緒に遊んだりする光景が、日常的に見られます。

互いに誰かの役に立ち、「ありがとう」と言い合える関係性の中で、子どもたちは「自分も誰かを支えられる存在なんだ」という自信を育てています。



屋外では様々な体験プログラムも実施。スタッフが常によりそってくれる安心感

支援プログラムで特に大切にしていることは何でしょうか。

私たちの根底にあるのは、「障がいの有無に関わらず、みんな一人の子どもの存在」という考え方です。だからこそ、たくさん遊び、さまざまな経験をしてほしいという思いで、日々プログラムを企画しています。失敗したり、立ち止まったりすることもあります。

しかし大切なのは、失敗しないことではなく、失敗してもまた立ち上がれる力を身につけること。そして困ったときに、「助けて」「手伝って」と周囲に伝えられる勇気を持つことです。それこそが、将来社会で生きていくための本当の強さにつながると信じています。

室内で完結する支援だけでなく、積極的に外へ出て、さまざまな年齢や立場の人と出会う機会をつくることも大切にしています。子どもたちが社会の多様性に触れると同時に、地域の方々にも私たちの活動を知ってもらおう。そうした「出会い」の積み重ねが、子どもたちの世界を大きく広げてくれると感じています。



画像左から：施設内での学習、ゲームや知育玩具で遊びを通して学ぶ。友達同士、スタッフとともに毎日過ごす様子は穏やかだ。



海外との交流が多く、ワールドワイドな気風はどこから？

私自身が英語を話せること、そして以前から海外に友人が多かったことが一つのきっかけです。現在、管理者、そしてスタッフとして働いているピンセンさんはフランス出身ですが、彼のつながりを通じて、日本を訪れた外国人の方が「HAPPINESS を見学したい」と連絡をくださることもあります。

子どもたちにとっては、単に「言葉が違う」という知識だけでなく、実際にさまざまな国の人と出会い、文化や習慣の違いを体感できる貴重な機会です。世界には多様な人がいて、それぞれに魅力があることを、自然に受け入れてほしいと考えています。

子ども達にとって、多様な文化に触れることは

国籍を問わず、さまざまな背景を持つ人と関わることは、子どもたちの可能性を大きく広げると考えています。そのため、外出の機会を積極的につくる一方で、施設にもオープンにゲストを招いています。

HAPPINESS では日常的に英語が飛び交い、英語クラスも行っているため、子どもたちは海外の方を前にしても臆することがあまりありません。自分から挨拶ができる、簡単な自己紹介ができる—そんな小さな成功体験の積み重ねが、確かな自信につながっています。多くの国の人と出会い、笑顔で交流する一つひとつの経験が、子どもたちの世界を広げる力になっていると感じます。

国や文化が違っていても共通する、「子どもを支える」という視点

国が違えば、福祉制度や支援の仕組みも異なります。しかし、「子どもが幸せであってほしい」と願う親の気持ちは、世界共通だと思います。制度の枠を超えて、一人ひとりの保護者の思いに寄り添い、共に最善の道を考える。その姿勢こそが、どの国でも変わらない「子どもを支える」ことの本质ではないでしょうか。

海外、ドイツの支援事例や福祉の在り方から学びたい点は？

支援者が「どれだけ情報を知っているか」によって、支援の質は大きく変わると感じています。「海外の話だから関係ない」と閉じるのではなく、新しい考え方や事例を柔軟に取り入れていく姿勢を大切にしたいです。

海外の知育玩具やボードゲームの寄付をいただくこともあり、そうしたツールを通じて、子どもたちが楽しみながら集中したり、ルールを守って友だちと関わったりする姿が見られます。これらは作業療法（OT）やソーシャルスキルトレーニング（SST）にも直結しており、海外の優れた実践から学ぶ意義を実感しています。

「HAPPINESS」として今後どのような支援を目指していきたい？

卒業後も子どもたちの成長を見守り続け、お母さんたちの力になれる「相談支援事業所 PLAISANT」、卒業後の「余暇の充実」と「家族の就労支援」の両方を支える場所として移動支援、居宅介護支援事業所「ハートポート FELIZ」も立ち上げました。

今回は障がい児支援施設としてのお話を中心でしたが、行政との連携から所属し、副部長を務めている社会福祉協議会の東灘区「子ども部会」では、不登校の子どもたちに関する課題も年々大きくなっています。

「将来のために」という視点も大切ですが、まずは今、目の前にいる子どもたちの困りごとを一つでも減らし、笑顔を増やすこと。その積み重ねを、これからも大切にしていきたいです。



屋外でも元気。今も、未来も笑顔が続く

「将来のために」という視点も大切ですが、まずは今、目の前にいる子どもたちの困りごとを一つでも減らし、笑顔を増やすこと。その積み重ねを、これからも大切にしていきたいです。

本誌の読者に一言メッセージをお願いします。

私自身、海外での生活や子育てを経験してきました。慣れない環境で奮闘されている皆さん、もし「日本語が恋しい」「少し話を聞いてほしい」と思うことがあれば、時差の問題はありますが、いつでも気軽にご連絡ください。

お母さん・お父さんの笑顔は、子どもたちにとって何よりの幸せです。だからこそ、親も「しんどい時はしんどい！」と素直に言える、そんな安心できる場所でありたいと願っています。